

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																	
ベルエポック美容専門学校	平成12年1月20日	大谷 啓一	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前三丁目26番地1号 (電話) 03-3423-9090																	
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																	
学校法人東京滋慶学園	昭和55年2月26日	中村 道雄	〒143-0016 東京都大田区大森北一丁目18番地2号 (電話) 03-3763-2200																	
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士															
衛生	美容専門課程	美容師科		平成14年文部科学省告示第19号	-															
学科の目的	美容に関する高い専門技術、知識、情報力、感性、想像力、コミュニケーション力をもった美容師を養成します。その育成を通じて、若者から高齢者まで幅広い世代の人々が心と身体ともに健やかに美しく、豊かに生きていける社会に貢献します。																			
認定年月日	平成26年3月31日																			
修業年限	昼夜	講義		演習	実習	実験	実技													
	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	2010時間		450時間	690時間	870時間	0時間	0時間												
2年	昼間	450時間		690時間	870時間	0時間	0時間													
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数														
320人		322人	0人	9人	13人	29人														
学期制度	■前期: 4月1日から9月30日まで ■後期: 10月1日から3月31日まで			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 教育課程記載上の科目については全て評価を行う。各科目について定期試験及び臨時試験(論文・レポートを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で評価する。評価はA・B・C・D・E・Fで行い、D以上で合格とする。但し、学校長が必要と認めた場合には、これら以外の表記で成績を表すことができる。その際の評価方法の詳細については別に定める。GPA(グレート・ポイント・アベレージ)制度による評価については別に定める。															
長期休み	■学年始: 4月1日~4月5日 ■夏季: 8月1日~8月31日 ■冬季: 12月22日~1月5日 ■学年末: 3月8日~3月31日			卒業・進級条件	学校長および学校長の指名により進級・卒業判定会議を開催し、審査のうえ判定する。所定の科目の単位、授業時間を履修し、その成果を計った結果を含め認定する。															
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者への指導等の対応 保護者を含めた面談による指導			課外活動	■課外活動の種類 美容技術研究サークル(P-Lab)、サッカー、ダンス 文化祭実行委員会、ベルリンピック(体育祭)実行委員会 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)															
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和元年度卒業生) 美容室			主な学修成果(資格・検定等)※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>美容師(国)</td> <td>②</td> <td>131人</td> <td>125人</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	美容師(国)	②	131人	125人					
	資格・検定名	種別	受験者数		合格者数															
美容師(国)	②	131人	125人																	
■就職指導内容 求人案内、履歴書作成支援、就職模擬面接、校内企業説明会の実施 <table border="1"> <tbody> <tr> <td>■卒業生数</td> <td>138</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職希望者数</td> <td>126</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職者数</td> <td>126</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職率</td> <td>100</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>■卒業者に占める就職者の割合</td> <td>91</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> ■その他 ・卒業のみ希望: 11人 ・留学: 1人 (令和元年度卒業生に関する2020年5月1日時点の情報)			■卒業生数	138	人	■就職希望者数	126	人	■就職者数	126	人	■就職率	100	%	■卒業者に占める就職者の割合	91	%	※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等		
■卒業生数	138	人																		
■就職希望者数	126	人																		
■就職者数	126	人																		
■就職率	100	%																		
■卒業者に占める就職者の割合	91	%																		
中途退学の現状	■中途退学者 28 名 平成31年4月1日時点において、在学者319名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者291名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 目的意識喪失、進路変更、人間関係			中退率	8.8%															
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 希望者に対し特待生試験を実施し、採用者には授業料の一部を減免している。(家庭の経済状況は考慮していない)			第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)															
	■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																			
当該学科のホームページURL	http://www.belle.ac.jp/gakka/biyo																			

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

急激に変化をしている社会環境において、状況の理解を行い市場ニーズにあった人材育成を行うべく美容業界と連携し教育内容を編集する必要がある。そのため本校においては原宿という地域をもとに教育を深めていくために地元企業を中心に教育内容について実務的な内容を検討することを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本校の教育課程編成委員会は、学校関係者評価委員会による評価内容を基に教育内容、教育方法の客観的評価と改善提案を行う。この改善提案は企業連携のもと、実践的かつ専門的な観点から業界から求められる教育について検討する。本委員会にて提案・助言があった事項については、教務部長が中心となり、本校FDC、当該学科職員と共にカリキュラムの構築や教育内容の改善・工夫を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
村橋 哲矢	東京都美容生活衛生同業組合 専務理事	平成31年4月1日～令和3年 3月31日(2年)	①
雑賀 英敏	株式会社トニーアンドガイジャパン 代表取締役	平成31年4月1日～令和3年 3月31日(2年)	③
松永 英樹	株式会社アビー 代表取締役	平成31年4月1日～令和3年 3月31日(2年)	③
大河 光太郎	ネイヴィル 代表	平成31年4月1日～令和3年 3月31日(2年)	③
大谷 啓一	ベルエポック美容専門学校 学校長	平成31年4月1日～令和3年 3月31日(2年)	
岩村 勇	ベルエポック美容専門学校 運営本部長	平成31年4月1日～令和3年 3月31日(2年)	
三井 真以子	ベルエポック美容専門学校 副運営本部長・事務局長	平成31年4月1日～令和3年 3月31日(2年)	
藤本 拓也	ベルエポック美容専門学校 事務局次長	令和2年4月1日～令和4年3 月31日(2年)	
黒崎 洋平	ベルエポック美容専門学校 教務部長	令和2年4月1日～令和4年3 月31日(2年)	
岩本 賢矢	ベルエポック美容専門学校 美容師科 学科長	令和2年4月1日～令和4年3 月31日(2年)	
川畑 誠	ベルエポック美容専門学校 キャリアセンター センター長	令和2年4月1日～令和4年3 月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

開催回数 年間 2回

第1回 令和2年6月2日 13:00～15:00 →【変更】令和2年7月7日 13:00～15:00

第2回 令和2年10月13日 13:00～15:00(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

即戦力としての技術取得として、「シャンプー」「カラー」などの技術取得授業について提案があった。本校現状に照らし合わせ「シャンプー」技術授業は十分な授業時間を確保しているとの評価をいただいた。また、市場調査を実施し現場で求められる技術を学校が理解しておくことが良いとの提案を受けた。この提案を受けて早速、授業内容の改善見直しを行っている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

見学の理念にも掲げている実学教育の実現のため、即応力を身に付けるために企業と連携をして教育提携を結び、実践的な技術教授のための授業内容を構築する。また業界外部講師を招聘し、業界ニーズに応えられる実践的な技術・知識を学生に提供することを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

1. 美容教育の実習ならびに演習授業における教育目標、授業実施方針、評価の基準点などを事前に説明を行い教育連携に賛同していただいた企業と教育締結を結ぶ。
2. 美容師養成に関わる各種法律の要件に合致する実務者を派遣していただき、1)と同様の打合せを実施し授業の質の均一化を図る。
3. 美容関係業界の実務者による実技指導を通じて美容技術や接客サービス方法など卒業後即戦力となる技術の享受を演習授業として行う。さらに定期的に科目連絡会を実施することで指導内容を精査し産学協同の質の高い授業を展開する。
4. 授業での学生評価は本校学則に準拠しており平素の出席状況での期末試験受験可否と学期末に実施する定期試験の成績にて評価を授業実施者(連携企業職員)が行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
美容実習	ベーシックスタイルのカット・ブロー技術の習得と、サロンワークの流れを理解する	井上美容研究所 エルロード(美容院)
美容総合技術	トータル的な知識・技術を身につけ、能力の幅を広げられるように学ぶ	井上美容研究所 エルロード(美容院)
美容総合技術 A/B	ブロー基礎知識、動作を知る。長さに応じたスタイルをスタイリング材を用いて技術を学ぶ サロンワークを学ぶ	井上美容研究所 エルロード(美容院)

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学園の定める教員研修規定において、教員の授業内容・教育技法の改善ならびにクラス運営方法の向上、マネジメント能力を含む指導力の向上を研修の基本方針とする。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

授業の教授資格要件取得のために公益社団法人 日本理容美容教育センター主催の理容師美容師養成施設教員資格認定研修会へ派遣する。

- ・年間9回開催の内、現行の講師要件に合わせるため令和元年度は2名の職員が参加
- ・対象:学内規程として美容師免許取得登録後、実務経験5年以上の教員
- ・内容:美容実習・美容技術理論(7月・12日間)、保健(10月・12日間)
- ・修了認定:各研修会にて修了認定試験があり合格することで該当する美容師養成科目の講師要件が与えられる。

②指導力の修得・向上のための研修等

<学内研修>

- ・年間6回の教務研修を各回1日間で実施(実施月:3月、4月、6月、9月、10月、12月)
- ・対象:全教務職員
- ・内容:各時期に応じた学生支援についての研修
3月:学内ルールの徹底ならびに学習動機付けの方法、4月:連休明け学生モチベーション向上対策、
6月:アンガーマネジメント研修(外部招聘講師)

<学外研修>

教授力、指導力の向上を目的とする研修については一般財団法人 滋慶教育科学研究所と連携し、個々の教育経験、在職期間等を考慮し、それぞれの対象に応じた教職員の研修を行い、研究にも参加している。

- ・年間10回の教育研修を実施(実施月:3月、6月、7月、9月、10月、12月、1月)
- ・対象:教務職員を対象に勤続年数、職位別に実施
- ・内容:職位別教授技法研修
3月:FDミクロレベル研修(新入職員対象)、6月:FDミドル研修(学科責任者対象)、
7月:FDマクロレベル研修(教育責任者対象)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

授業の教授資格要件取得のために公益社団法人 日本理容美容教育センター主催の理容師美容師養成施設教員資格認定研修会へ派遣する。

・現行の講師要件に合わせるため今後、5年間をかけて全教職員が研修に参加することとしている。

・対象:美容師免許取得登録後、または教育指導経験の実務経験4年以上の教員

・主催:公益社団法人 日本理容美容教育センター

・受講研修一覧

美容実習・美容技術理論

期間:令和元年7月25日～8月9日

講師:山路茜(立教大学助教)、中居由佳(全日本美容講師会常任創作委員)、他8名

本校受講教員:1名

内容:教育分野、シャンプー、パーマントウェービング、ヘアカット、メイクアップ、ヘアデザイン、日本髪、上記項目について内容理解と教授方法を学ぶ。

保健

期間:令和元年10月28日～11月13日

講師:山路進(江戸川大学教授)、谷田宗男(東北労災病院皮膚科部長)、他7名

本校受講教員:1名

内容:教育分野、関係法規・制度、人体の構造および機能、皮膚科学、上記項目について内容理解と教授方法を学ぶ。

・修了認定:各研修会にて修了認定試験があり合格することで該当する美容師養成科目の講師要件が与えられる。

② 指導力の修得・向上のための研修等

<学内研修>

・年間6回の教務研修を各回1日間で実施(実施月:3月、4月、6月、9月、10月、12月)

・対象:全教務職員

・内容:各時期に応じた学生支援についての研修

・受講研修一覧

夏休み明け学生モチベーション向上について

期間:令和元年9月10日

講師:藤本拓也(ベルエポック美容専門学校教務部長)

本校受講教員:32名

内容:夏休み明け学生支援・援助方法についての検討

学生指導におけるコーチング方法1

期間:令和元年10月3日

講師:稲垣友仁(株式会社コーチングシステムズ)、稲垣陽子(株式会社コーチングシステムズ)

本校受講教員:32名

内容:共生コーチングによる人的支援方法を学ぶ

学生指導におけるコーチング方法2

期間:令和元年11月21日

講師:稲垣友仁(株式会社コーチングシステムズ)、稲垣陽子(株式会社コーチングシステムズ)

内容:学生支援におけるコーチングの活用方法と実務方法について学ぶ

本校受講職員:32名

<外部研修>

一般社団法人 滋慶教育科学研究所と連絡し、教授方法、学生支援・指導方法に関する種々の研修に参加をしていく。

・年間10回の教育研修を実施（実施月：3月、6月、7月、9月、10月、12月、1月）

・対象：教務職員を対象に勤続年数、職位別に実施

・主催：滋慶教育科学研究所

・受講研修一覧

カウンセリング研修(1次)

期間：令和元年9月14日～15日

対象：新入職員・本校受講教員：1名

講師：滋慶学園グループ教職員カウンセリング運営委員会認定講師並びに
スクールカウンセラー(総勢20名)

内容：カウンセリング概要、カウンセリング基本、カウンセリング技術、カウンセリング演習
上記各項目について学ぶ

筆記試験により合格者には認定教員カウンセラー(1次)のディプロマが付与される。

カウンセリング研修(2次)

期間：令和元年9月15日

対象：入職2年目職員・本校受講職員：1名

講師：滋慶学園グループ教職員カウンセリング運営委員会認定講師並びに
スクールカウンセラー(総勢18名)

内容：カウンセリング実務、ケーススタディについて学ぶ

筆記試験並びに小論文により合格者には認定教員カウンセラー(2次)のディプロマが付与される。

FDマイクロレベル フォローアップ研修

期間：令和元年10月19日

対象：入職2年目職員・本校受講職員：1名

講師：滋慶グループFD委員会認定講師並びに認定教員

内容：社会からの信頼に応えることの出来る職業人教育の構築と実践のために、
教職員の教育力とマネジメント力(マインド・知識・スキル・コンピテンシー)の
組織的な向上を醸成する。

滋慶教育科学学会

期間：令和元年12月7日

対象：全教務職員・本校受講者：2名

内容：教育実務に関する研究発表6題、教育実務に関する実地報告28題
上記発表を聴講することで教育実務改善に努める。

FDマイクロレベル レベルアップ研修

期間：令和2年1月18日

対象：入職2年目職員・本校受講職員：1名

講師：滋慶グループFD委員会認定講師並びに認定教員

内容：社会からの信頼に応えることの出来る職業人教育の構築と実践のために、
教職員の教育力とマネジメント力(マインド・知識・スキル・コンピテンシー)の
組織的な向上を醸成する。

国家試験対策研修会

期間：令和2年1月30日

対象：国家試験受験学科教員・本校受講職員：8名

講師：滋慶学園国家試験対策センター長 稲岡隆輔

内容：国家試験100%合格に向けた学生支援についての分析・手法を身に付ける。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己点検・自己評価に基き、学校関係者評価委員会を実施する。本委員会は学校の理念を踏まえた上で教育機関としての学校のあり方を客観的に評価し助言を行うことで、適切な教育提供に結びつくようにする。この助言を受け学校はPDCAサイクルに基き分析・検証を行い学校運営の改善に取り組むことを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事・給与制度、意思決定システム、
(3) 教育活動	目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、資格・免許取得の指導体制、教員・教員組織
(4) 学修成果	就職率、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、保護者との連携、卒業生・社会人
(6) 教育環境	施設・設備等、防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金
(8) 財務	財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	関係法令、設置基準等の遵守、個人情報保護、学校評価、教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献、ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

委員助言として社会人入学希望者の受け入れ態勢の充実、就職活動支援、中途退学抑止に関する取り組みについて、更なる取り組みの要望があった。また、教育活動の中に卒業生を登用し未来提示をすることで信頼を高めていくことの提案を受けた。変化をしている社会情勢に併せた専門知識以外の社会的ルールについても学校教育の中に取り入れについて提案があった。これを受け、現状分析を行い改善と企画を立ち上げることにしている。今年度中に実施できる物はすぐに取り入れ、カリキュラムに関わるものについては教務部長を中心に次年度の教育に反映させていくこととなった。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
村橋 哲矢	東京都美容生活衛生同業組合 専務理事	平成31年4月1日～令和3年 3月31日(2年)	職能団体 役員
雑賀 英敏	株式会社トニーアンドガイジャパン 代表取締役	平成31年4月1日～令和3年 3月31日(2年)	企業代表
松永 英樹	株式会社アビー 代表取締役	平成31年4月1日～令和3年 3月31日(2年)	企業代表
大河 光太郎	ネイヴィル 代表	平成31年4月1日～令和3年 3月31日(2年)	企業代表
青山 清志	アヴェンツ ファウンデーション 店長	平成31年4月1日～令和3年 3月31日(2年)	卒業生
西村 尚美		平成31年4月1日～令和3年 3月31日(2年)	保護者
倉澤 弘明	第一学院高等学校 教育運営部 教務ICT支援室 室長	令和2年4月1日～令和4年3 月31日(2年)	高等学校 役員
小泉 由梨	穂田表参道町会 会長	平成31年4月1日～令和3年 3月31日(2年)	地域関係 者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公開方法: ホームページ 公開時期: 委員会終了後随時)

URL: <http://www.belle.ac.jp/concept/syokugyou>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の情報提供は基本的にはホームページを通じて行っている。これは企業をはじめとする業界諸氏についても同様である。提供する情報については学校の紹介に始まり平素の学校教育について、その取り組みを配信している。これにより企業等との連携が生じ、学校教育や就職の支援などの充実につなげていくことを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	開校の目的、建学の理念
(2) 各学科等の教育	各学科の入学定員・養成目的、教育システムとカリキュラム体系
(3) 教職員	教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み、実習・実技、企業との連携紹介、就職支援の取り組み
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育活動、企業プロジェクト、校舎・設備紹介
(6) 学生の生活支援	学生寮・1人暮らしサポート、就職サポート
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金情報、学費サポートシステム
(8) 学校の財務	決算書、監査報告書
(9) 学校評価	自己点検・自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	国際交流
(11) その他	社会との取り組み(産学連携)、災害時非常時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.belle.ac.jp/info>

授業科目等の概要

(美容専門課程美容師科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			関係法規	美容師法の内容について目的・定義・美容師教育・試験・美容師免許開設の届出と衛生措置、行政を学ぶ	1後	30	1	○			○			○	
○			衛生管理Ⅰ	公衆衛生・環境衛生・感染症・消毒技術を学ぶ	1前	30	1	○			○				○
○			衛生管理Ⅱ	公衆衛生・環境衛生・感染症・消毒技術を学ぶ	1後	30	1	○			○				○
○			衛生管理Ⅲ	公衆衛生・環境衛生・感染症・消毒技術を学ぶ	2前	30	1	○			○				○
○			美容保健Ⅰ	実技授業科目で実施する関連分野の習得	1前	30	1	○			○				○
○			美容保健Ⅱ	実技授業科目で実施する関連分野の習得	1後	30	1	○			○				○
○			美容保健Ⅲ	実技授業科目で実施する関連分野の習得	2前	30	1	○			○				○
○			化粧品化学Ⅰ	化粧品概論、原料・基礎・メイクアップ用頭皮、毛髪用化粧品を学ぶ	2前	30	1	○			○				○
○			化粧品化学Ⅱ	化粧品概論、原料・基礎・メイクアップ用頭皮、毛髪用化粧品を学ぶ	2後	30	1	○			○				○
○			美容文化論Ⅰ	ファッション、ヘアメイクの歴史の最新情報を収集し、研究し、プレゼンテーションを学ぶ	2前	30	1		○		○			○	
○			美容文化論Ⅱ	ファッション、ヘアメイクの歴史の最新情報を収集し、研究し、プレゼンテーションを学ぶ	2後	30	1		○		○			○	

(美容専門課程美容師科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			美容技術理論Ⅰ	実技授業科目で実施する関連分野の習得	1前	30	1	○			○		○	○	
○			美容技術理論Ⅱ	実技授業科目で実施する関連分野の習得	1後	30	1	○			○		○	○	
○			美容技術理論Ⅲ	実技授業科目で実施する関連分野の習得	2前	60	2	○			○		○	○	
○			美容技術理論Ⅳ	実技授業科目で実施する関連分野の習得	2後	30	1	○			○		○	○	
○			運営管理	接客知識コミュニケーション能力と人とかかわる上でのスキルを学び、サロンでの営業システムを学ぶ	1前	30	1		○		○		○	○	
○			美容実習(サロンワーク)	ベーシックスタイルのカット・ブロー技術の習得と、サロンワークの流れを理解する	1前	60	2			○	○		○	○	○
○			美容実習(サロンワーク応用)	アレンジスタイルのカット・ブロー技術の習得と、サロンワークの流れを理解する	1後	60	2			○	○		○	○	○
○			美容実習(シャンプー-I)	シャンプーの基本的な手技を習得する	1前	60	2			○	○		○	○	○
○			美容実習(シャンプー-II)	多様なシャンプー台での手技を習得する	1後	60	2			○	○		○	○	○
○			美容実習(カット&カラーリングⅠ)	ヘアカットならびにカラーリングの基本手技を習得する	1前	60	2			○	○		○	○	○
○			美容実習(カット&カラーリングⅡ)	ヘアカットならびにカラーリングのデザインを習得する	1後	60	2			○	○		○	○	○

○		美容実習 (国試総合技 術 I)	国家試験実技課題1の手技が規定時間内に完 了できるようにする	2 前	60	2				○	○		○	○	○
---	--	------------------------	-----------------------------------	--------	----	---	--	--	--	---	---	--	---	---	---

(美容専門課程美容師科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			美容実習 (国試総合技術Ⅱ)	国家試験実技課題2の手技が規定時間内に完了できるようにする	2後	60	2			○	○		○	○	○
○			美容実習 (ワインディングⅠ)	国家試験課題の一つであるワインディングの手技を取得する	1前	60	2			○	○		○	○	○
○			美容実習 (ワインディングⅡ)	国家試験課題の合格ラインの手技を取得する	1後	60	2			○	○		○	○	○
○			美容実習 (ワインディングⅢ)	国家試験課題の合格ラインよりも早く手技が終わるようにする	2前	60	2			○	○		○	○	○
○			美容実習 (オールウェーブⅠ)	国家試験課題の一つであるオールウェーブの手技を取得する	1後	60	2			○	○		○	○	○
○			美容実習 (オールウェーブⅡ)	国家試験課題の合格ラインの手技を取得する	2前	60	2			○	○		○	○	○
○			美容実習 (国試カット)	国家試験課題の一つであるワインディングの手技を取得する	2前	60	2			○	○		○	○	○
○			美容実習 (国家試験課題)	国家試験課題の合格ラインよりも早く手技が終わるようにする	2後	60	2			○	○		○	○	○
○			国際教育	海外の美容業界を体験する事で、グローバル人材人としての感覚と美に関する感性を学ぶ	1後	30	1		○		○	○	○		
○			ヘアメイクアップ	フルメイクまでのテクニックと必要な基本動作を理解しメイク技術・アップ技術を習得する	1前	60	2			○	○		○	○	
○			国家試験対策講座	国家試験合格に向け、弱点科目を把握し技術・筆記を学ぶ	2後	180	6		○		○		○	○	

(美容専門課程美容師科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			美容総合技術Ⅰ	ブロー基礎知識、動作を知る。長さに応じたスタイルをスタイリング材を用いて技術を学ぶ サロンワークを学ぶ	1前	60	2	○			○	○	○	○	
○			美容総合技術Ⅱ (選択授業)	ブロー基礎知識、動作を知る。長さに応じたスタイルをスタイリング材を用いて技術を学ぶ サロンワークを学ぶ	1後	60	2	○			○	○	○	○	
○			美容総合技術Ⅲ (選択授業)	ブロー基礎知識、動作を知る。長さに応じたスタイルをスタイリング材を用いて技術を学ぶ サロンワークを学ぶ	2前	60	2	○			○	○	○	○	
○			美容総合技術Ⅳ	ブロー基礎知識、動作を知る。長さに応じたスタイルをスタイリング材を用いて技術を学ぶ サロンワークを学ぶ	2後	30	1	○			○	○	○	○	
○			プロフェッショナルへの道Ⅰ	身構え・気構え・心構えを身につけ3つの習慣と礼儀作法を学ぶ	1前	30	1	○			○	○			
○			プロフェッショナルへの道Ⅱ	身構え・気構え・心構えを身につけ4つの習慣と礼儀作法を学ぶ	1後	30	1	○			○	○			
○			就職講座Ⅰ	就職先で必要なマインドスキルを学ぶ	2前	30	1	○			○	○			
○			就職講座Ⅱ	就職先で必要なマインドスキルを学ぶ	2後	30	1	○			○	○			
合計			14科目		2010単位時間(67単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：学則に定める全科目において、第1学年、第2学年の学年末成績が「C」評価以上(合格)の評価であること。	1学年の学期区分	2期
履修方法：学校が指定する学級、時間割に対して授業を受講する。	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。